

重松 ゆうこ 新聞

「食は命」を合言葉に！

vol.5

重松ゆうこファンクラブ

緊急

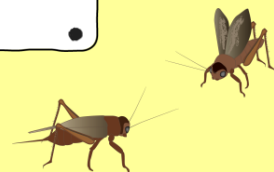
コオロギ食べますか？
ダメ、絶対!!!



みなさま、こんにちは。重松でございます。
今回は、緊急で記事を書いております。

最近、テレビや新聞などのメディアで急に始まった『コオロギ』などの昆虫食推奨。福岡市にも昆虫食専門ショップがあり、1,000億円市場だそうです。経営者目線で考えると、『おいしい業種』という事なのでしょう。

文化として昆虫を食べている国や地域がある事も知っています。ただそれは、ご先祖さまの時代から食されているので、それを私は否定しません。今話題になっている昆虫食は、コオロギやうじ虫(ハエの幼虫)です。ゴキブリミルクという物も開発され、牛の牛乳よりも栄養価が高いという事になっています。みなさん、このような食材(?)を口にされますか？歴史を遡っても、私たち日本人はコオロギは食べていませんでした。今までご先祖さまも食べていなかった昆虫食を、唐突にすすめている社会風潮にとっても違和感と恐怖を感じます。



日本は備蓄米も大変少なく、食料を輸入に頼っている状態です。1965年は73%だった食料自給率(カロリーベース)も、2021年時点では38%まで低下しています。

戦時中、配給米は1日2合だったそうです。それが終戦後には大幅に減らされ、庶民を救ったのは高価な「ヤミ米」でした。山口良忠さんという判事さんが、『ヤミ米を取り締まる自分が、ヤミ米を食べてはいけない』との考えから、一切ヤミ米を買わなかったところ、栄養失調に伴う肺結核により33歳の若さで亡くなられたのは有名な話です。

現在、国民一人あたりの米の生産量は終戦後の配給米の約半分、流通が止まれば国民の半分は餓死すると言われていいます。このような状況にもかかわらず国は農家に「減反」、酪農家には「牛を殺せ」と言っています。一頭淘汰(殺す)すると15万円の交付金が出るそうです。こういう指示をしながら、国民にはコオロギ・うじ虫・ゴキブリミルクを推奨しています。食べた事がない食品は「人体実験」が終わっていません。つまりは、次世代への影響がわかっていないのです。水俣病で被害が酷かった、胎児性水俣病から、食が次世代へ影響する事を私たちは学びました。みなさん思い出しましょう。

私は、ご飯とお味噌汁を推奨します。お米にはタンパク質も入っています。リジンなどの必須アミノ酸が少ないので、先人たちは「畑の肉」と言われる大豆で補ってきました。味噌や納豆などの発酵食品を作って備えていました。「人体実験」も終わっています。先人たちが命がけて残してくれた文化を、大事に受け継いでいきたいのです。お米は減反ではなく増産、国産大豆も大增産。福岡市内、マンションも多いけど空き地もあります。空き地にはみんなでお芋や野菜を植えられるような条例ができればいいですね。お芋は天日干しにするとおやつになります。お野菜も天日干しできます。お米もお味噌も保存ができます。そういうところから、みんなで始めてみませんか？



次号に続きます。

前号までの新聞はホームページにて公開中

